



## 木津川沿い山背古道（奈良街道）散策 その1（木津～上狛）

観察河川：木津川、上狛環濠

淀川水系の木津川流域を南から北へ木津川右岸の流れに沿って、一部奈良街道と重なる山背古道を散策します。壬申の乱で大海人皇子が大津宮から明日香の島宮を経て吉野宮へ入った際の木津川右岸のルートをはば逆行することになります。JR奈良線が通っているので適当な駅で乗り降りできます。木津川市、井出町、城陽市による山背古道推進協議会のガイドブックを参考に、木津駅から城陽駅まで5～6回に分けて散策の計画を立てました。今回はその1回目として木津駅から上狛駅まで、奈良から京都・大坂を結ぶ舟運の基地としての木津川（上狛浜の河港）、奈良・京都を結ぶ陸路幹線である奈良街道（山背古道）の歴史ポイントをめぐります

&lt;担当Bグループ浅野&gt;

- 1：日時 2021年11月25日（木） 10時30分 中止の場合は前夜メールします
- 2：集合 JR木津駅 トイレは改札内、集合前に済ませてください
- 3：持ち物 弁当、飲み物、雨具、双眼鏡 等
- 4：目的地 惣墓五輪塔、和泉式部墓、泉大橋、地藏石仏、山城茶問屋ストリート、  
上狛環濠集落、玉台寺
- 5：行程 約6km 最後の上狛駅～玉台寺往復をカットすれば全体行程約3kmです
- 10：30 JR木津駅（トイレ済ませて集合） 10：30発 0.6km
- 10：40 惣墓五輪塔 10：50発 （奈良街道へ右折） 0.3km
- 10：55 正覚寺（洪水供養石仏）通過？ 11：00頃 0.1km
- 11：05 和泉式部墓 11：10発 （小川を渡る） 0.6km
- 11：20 泉大橋 （木津川を渡る） 11：30頃 0.6km
- 11：40 木津川右岸河川敷で昼食 12：00発 0.1km
- 12：05 地藏石仏（泉橋寺） 12：15発 （再び奈良街道を北上） 0.3km
- 12：20 山城茶業之碑石碑&茶問屋ストリート（最盛期100軒 現在40軒？） 12：40発 0.4km
- 12：50 木津川市山城支所別館（トイレ） 13：00発 0.1km
- 13：05 上狛環濠集落（散策） 13：30発 0.4km
- 13：40 JR上狛駅（トイレ） 14：00発 1.5km（この駅でリタイア可）
- 14：25 玉台寺・狛弁財天社（季節の花と生駒連峰遠望） 14：50発 1.5km
- 15：15 JR上狛駅 解散 JR奈良線 奈良方面15：22発 京都方面15：23発 あり

## 〈木津～上狛　：見どころミニガイド〉

### ○惣墓五輪塔：木津川氾濫の供養

高さ 3.6m、花崗岩製の五輪塔です。建立年代の判る五輪塔として貴重なもので国指定重要文化財となっています。水輪にキリーク(梵字)が彫刻され、地輪東面に正応五年(1292)の造立銘、北面に永仁四年(1296)、南面に永禄五年(1563)の追刻銘がみられます。

惣墓とは、一般大衆のあいだに個人墓が普及していなかった時代の葬儀の一形態で、いわゆる共同墓地という意味をもっており、主に大和・山城地方に分布しています。かつて木津川はよく氾濫を起こし、長いあいだ人々に大きな被害を与え続けてきました。惣墓(共同墓)五輪塔は、木津川の氾濫で亡くなった人々の供養のために鎌倉時代の正応5年(1292)に建立されたものと思われます。

### ○和泉式部墓：「あらざらむ　此世の外の思い出に　今ひとたびの逢う事もがな」

木津川はかつて泉川と呼ばれていたため、土地の人が和泉式部と結びつけたものと思われます。

和泉式部は平安時代の女流歌人で、木津で生まれ宮仕えの後、木津に戻って余生を送ったと伝えられているそうです。三十六歌仙のひとりで、一条天皇の中宮彰子に紫式部らとともに仕え「和泉式部日記」「和泉式部集」などの歌集を残し、恋多き歌人といわれています。

幼少の頃より詩歌に親しみ、「和泉守橘道貞」という人物と結婚し、夫の官名をとって「和泉式部」と呼ばれるようになったといわれています。その夫と離別した後、何人かの人物と付き合いましたが、みな若くして亡くなってしまいます。その後、中宮彰子のもとに仕えたことが縁となって、丹後守藤原保昌に嫁入りし、夫の地方への赴任についていったそうです。和泉式部が美人であったかどうかはわかりませんが、多くの男性を引きつける魅力を備えていたことは確かなようです。

地方へ行った後の消息はよくわかっていないことから、お墓といわれるものは全国に多く存在し、それぞれ伝説が残されています。

### ○「泉川」：木津川　いどみ川

「泉川」の名前の由来には、古事記日本書紀に、10代崇神天皇の時代に武埴安彦(8代孝元天皇皇子)が反乱を起こし、両軍がこの川を挟んで相挑んだことから挑河(いどみ川)とよばれ、なまって泉川となったと記されているそうです。

「武埴安彦破斬旧跡」の碑が木津川の対岸精華町祝園駅近く(いずもり)にあります。

### ○大智寺：

本尊の文殊菩薩坐像と十一面観音菩薩立像は重要文化財。文殊菩薩坐像は奈良時代に行基が架けた泉大橋が流され、残っていた橋柱から鎌倉時代に刻みだしたものと伝わります。伽藍を建立して安置したのが現在の大智寺の前身の橋柱寺といわれています。その後衰退しますが、寛文9年(1669)本寂が中興、橋柱山大智寺と改号されました。なお、鎌倉時代弘安年間(1278～88)に橋柱から刻んだとされる文殊菩薩座像は寄木造、十一面観音立像は内刳のない一木造で古様(平安時代10世紀末制作?)。

### ○泉大橋：日本百名橋

恭仁京の建設時に行基が740年(又は741年)に架橋、876年に洪水で流され、明治時代の1877年仮設橋まで船で渡河、仮設の橋は2度流され1893年に本格的な橋、その後も何度か架け替え、1951年に現在の橋。383.6Mのカンチレバー(ゲルバー)式トラス橋です。固定桁と吊桁から成り、吊り掛け部のピン構造と無数のリベットが見もの。併設されている歩行者自転車橋から細部が観察できます。日本百名橋に選ばれています。

○泉橋寺：

泉橋寺は僧行基が五畿内（山城・大和・摂津・河内・和泉）に造営した四十九院のひとつと言われています。天平13年（741）頃行基が泉川に架橋したとき供養のため建立、前身は泉橋院（発菩薩院）。完成時には聖武天皇も訪れ、蜻蛉日記の筆者藤原道綱母も案和元年（968）初瀬詣の途次宿泊しています。

治承4年（1180）平重衡の南都攻めの際に消失、その時の犠牲者を供養した五輪石塔は国の重要文化財です。

藤原道綱母による蜻蛉日記は954～974の出来事を記述、起筆は971頃かといわれている

○平重衡：平清盛の五男（平家物語）

南都焼き討ちの総大将であった平重衡は一の谷の合戦（1184）で虜囚の身となり鎌倉に護送、後奈良へ送られ木津川河畔で斬首、平重衡首洗池が木津川左岸のJR奈良線鉄橋麓（安福寺）にある。

○泉橋寺地藏菩薩石仏：（山城大仏）

高さ約4.58mあり、日本一の石地藏として有名。鎌倉時代末の徳治3年（1308年）に造られたが、応仁の乱（応仁元年1467～文明9年1477）でお堂とも焼失。元禄年間に復元、頭部と両腕は後補。

○山城茶業之碑：茶問屋ストリート約40軒（最盛期100軒茶問屋 茶の輸出港：東神戸）

中国から伝来した茶は室町時代に山城各地で栽培され、やがて近江大和伊賀伊勢へと伝播しました。江戸時代末の神戸港開港（慶応3年1868）によって山城宇治茶の輸出は急激に増加、各地から集められた茶葉は上狛で加工され上狛浜から木津川・淀川を経て神戸港から輸出、上狛茶問屋街は東神戸今神戸と呼ばれ繁栄しました。

福寿園資料館（玉露喫茶とセット：入館喫茶料¥500、団体の場合60分程度必要、今回はパス）

○上狛環濠集落：山城地域で最大の環濠集落

京都と奈良を結ぶ旧奈良街道沿いの垣内集落で、戸数約300戸ほどの山城地域でもっとも大きい環濠集落である。山城国一揆の中心となった。通称「大里」と呼ばれ、長径600m、短径300mの周囲を堀に囲まれ、日本の環濠集落の中でも、規模の大きいもののひとつ。堀の外は田畑、内側を高く築いて竹藪をめぐらし、内部は中央に狛氏の居館を配して各所に共同井戸を備えていた。この姿は現在もいくらか残っており、大和棟民家も散見されます。

○玉台寺：季節の花々と生駒連峰遠望

弁才天社は狛一族の守護として 狛但馬守頼久（こまたじまかみたよひさ）によって永享9年（1437年）に建てられたと伝えられています。狛の弁天さんとして長く親しまれてきた木造弁才天坐像は、天正6年（1578年）に奈良の仏師によって造立されたそうです。奈良興福寺の宮寺で本尊は観世音菩薩です。境内から生駒連峰を遠く望む景色は、とても素晴らしい。　　そうです。

椿、水仙、梅、サンシュユ、木蓮、桜、サクラソウ、どうだんつつじ、山吹、山つつじ、芍薬、花ミズキ、百日紅、寒あやめ、梅、桜、椿など四季折々に花が次々咲きます。

○上狛駅：JR奈良線の駅

京都方面、奈良方面へ各30分ごとに発車。徒歩1分に京都茶農協あり、酒店も近い　（笑）

以上